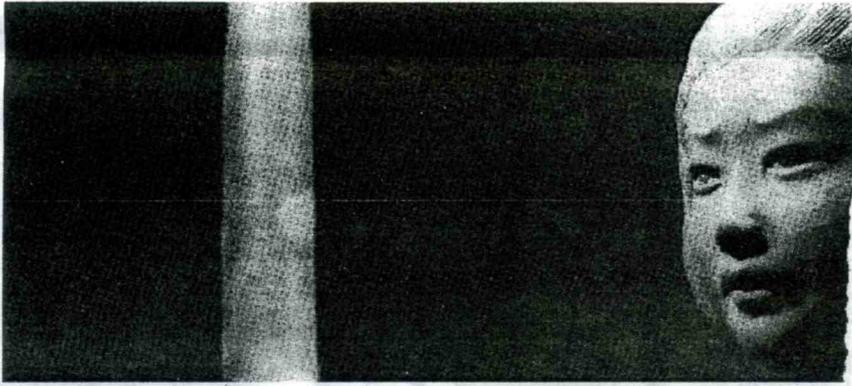


naratara

2001 年 1 月 創刊号



奈良 21 世紀フォーラム理事長
石橋 設一

奈良二十一世紀フォーラムは、昨年四月十二日奈良県知事より、特定非営利活動法人の認証を得てから本格的に会員募集と並行して事業活動の企画立案そして一部事業を展開して参りました。

設立イベントの際にご挨拶申上げました通り、二十一世紀は国境を超えたまちづくりが形成されていく時代で、皆さんの協力を得ながら、世界の人も協調して新しいまちづくりのための社会活動に貢献できるよう頑張つて参りたい所存であります。低成長、少子化の進展で終身雇用と年功賃金による「職縁社会」が維持できなくなりつつあります。それに代わる次世代の人間関係として、

ボランティア活動など自らの好みと美意識、倫理観を軸とした「好縁社会」の浮揚が期待されております。

幸い二〇〇一年は国際ボランティア年であります。すでにご入会いただいている会員の皆さま、そしてこれからご入会をお願いする皆さまのご協力をいただきながら、今年度は多彩な事業を計画しております。

平成十二年十二月十三日発表された、自民党税制改正大綱の中の NPO 税制によれば、非営利、公益性の視点から国税庁長官に認可を受けたものは、寄付金控除などの特例措置を講ずるといふことで、一月の通常国会に提出される運びになりました。モノの豊かさを求める価値観が薄れ、自らの好みで選び、楽しさを第一とする世の中が始まるうとして、即ち好縁社会の到来であります。

二十一世紀の国際ボランティア年の年頭にあたり、第一回会報の発刊と併せて挨拶とさせていただきます。

奈良 21 世紀フォーラム設立記念イベント

平成 11 年 10 月 23 日 (土)

奈良県立文化会館国際ホールにて

梯 剛之 ピアノリサイタル

安田 喜憲 記念講演「いつから私たちはこんなに貪欲になったのだろうか」

大正琴琴真会 祝賀演奏「越天楽」

梯 剛之 ピアノリサイタル

このリサイタルは、一九九八年の暮れ、厳しい審査で知られるロン・ティボー国際音楽コンクールで全盲のピアニストとして初めて二位入賞を果たしたばかりの梯剛之（かけはしたけし）さんを招いて奈良県で開催され、一九九九年の日本クラシック界最大の成果の一つに数えられました。

奈良公演に臨む梯さんの意気込みは大変なもので、前日奈良入りした剛之さんは、奈良教育大学の山口先生宅のピアノに向かって、夜遅くまで練習、見学に訪れた関係者もお母様の叱責のすさまじさに居たたまれなくなり、リハーサル室から全員逃げ出した程です。そのかいがあつてか当日の演奏はほぼ完璧の出来栄えだったと伝えられています。

梯さんは、生後一ヶ月で小児癌のため失明しますが、お母様の強い希望で、普通の小学校にさまざまな反対を押し切つて入学しました。

奈良公演には、教室で梯さんを励ました当時の同級生がかけつけ、花束を贈つた他、初めてお母様もステージに立たれ、どのようにして、目の見えない我が子にピアノを教えたのか語り、深い感動を呼



びました。
会場には目の不自由な人とその介添えのグループ「歯車会」の約七十人を招待しました。

安田 喜憲 記念講演

植物の花粉は、非常に強い膜を持ち、湿地など空気の影響を受けない所に落ちると何万年でも腐らないで残ります。

そこで、国際日本文化研究センターの安田教授達は、世界の四大文明発祥地周辺の湿地でボーリングを行い、花粉の化石を抽出して、どのような植物の花粉がどのくらいあるのかを調べることによって、過去の森の状態を復元、人類の古代都市文明が豊かな森林を利用して繁栄したと、そして、皆伐によって、衰退したこ

とを明らかにしました。

しかし、日本列島では、「鎮守の森」の信仰などによって奇蹟的に森林が保護され、日本文化は実は森の文化であったことを一九八〇年、実証したとされます。

安田先生達はその後中国の長江流域に残る稲作文化の遺構調査を日中合同で進めムギを中心とする黄河文明とは異なる第5の長江文明の輪郭を明らかにした上、日本の稲作文化のルーツとして位置づけました。

この記念講演は、飛鳥・藤原・平城の宮都調査研究にカクカクたる成果をあげてきた、奈良県内の研究者に新鮮な衝撃を与えたばかりか青垣山や吉野の森林保護に関心をいただく広い市民の熱い支援を得ました。



大和の文化「茶粥」復活

さっぱりとした伝統食に60人が集まる
奈良市の靈山寺で茶粥満喫

平成12年11月3日(文化の日)

食文化シリーズ第三回として、七百年の伝統食・茶粥を味わう会を文化の日の三日、奈良市の靈山寺で開催しました。奈良県に伝わる文化を記録・再現し、地域活性につなげるための企画で、県内外から約六十人の会員の皆様が和路の名物料理を堪能しました。

今回は大阪府内、京都そして県南部の御所・高田・橿原方面の方々の参加を得て、法人承認後の企画として評価を受けました。



著の文化は平安時代後期から、鎌倉時代に掛けて中国から渡来し、一般化しましたが、茶粥もその時代から始まったと思われず。曹洞宗では修行僧が食事にとり入れ、その歴史は七百年間、今に続いていると言われています。

大和の一般民衆は茶粥を信仰によって食べ始めたのか、それとも貧しかった為、食べ始めたのか、定かではありません。

当日は靈山寺東山管長の法話をお願いして、本尊薬師如来像についての解説と、寺院なのになぜ入り口に赤い大鳥居なのか、その本尊弁財天についてユーモアを交えてお話を頂きました。

醤油餅、さつま芋いずれか好みを炊きたての粥に入れ、ご自慢の靈山寺手作りの漬け物(これもまた美味)も頂きました。

たまたまご開帳期間中の秘宝展拝観、それに秋バラの観賞にローズティーを頂けるなど、靈山寺東山管長のご好意もあり晴天の文化の日を充分楽しむことができました。

戦後、奈良県の胃ガン発病率が全国一だったことから、熱い茶粥が原因とされました。その後の科学的な研究で根も葉もない嘘と判明、伝統食復活の動きも出てきています。

第一回食文化シリーズ

「最古の宮廷料理を楽しむ」

日本で一番古い都の跡とされる藤原京跡を発掘しますと、全国各地から宮廷に献上された特産物の荷札(木簡)が出てきます。これをもとに再現された古代食を味わう集いを、飛鳥保存財団「祝戸荘(いわいどそう)」で開催。百人近い会員やゲストが、日本最古の宮廷料理を賞味されました。古代史の和田京教大教授や明日香村の関村長の解説や琵琶の演奏などもりだくさんのメニューでした。

第二回食文化シリーズ

「大和の農産物は本当に美味しいのか」

「大和の農産物は京野菜などに比べても遜色なし」と主張される奈良県農業試験場の木村雅之(まさゆき)博士の提唱を確かめようという企画。五条の牧場のローストビーフや明日香村の乳製品、会員がこの日のために栽培した野菜類などを木村場長自らフランス料理風の調理に腕をふるい、参加者七十人の絶賛を浴びました。

*ご好評につき、本年度も「茶粥の会」を文化の日で開催します。第四回食文化シリーズも検討中です。お楽しみに。

今年の予定

蹴鞠復活汗

蹴鞠は、平安時代から京都に残る優雅な公家の遊戯として知られます。しかし、日本書紀には、大化の改新の大立者として名高い藤原鎌足が、中大兄皇子と飛鳥寺境内の太木の下で蹴鞠見物を装って改新の密議を凝らしたという記述があります。鎌足を祭る談山神社では今も、春秋の二回、京都の蹴鞠の会を招いて公開しています。飛鳥寺など奈良県内の関連社寺や町村としてスポーツ関係者の間からは、この史実にちなんで大和の蹴鞠を復元してはという声があり、すでに一部の市や町で復元の試みが行われています。

奈良二十一世紀フォーラムでは蹴鞠研究の権威として知られる東大名誉教授の渡辺融先生にお願いして、より競技性の高い日本最古の蹴鞠のルールを考案して頂き、二〇〇二年日本と韓国で共同開催されるワールドカップのオープンングイベントとして世界にお目見えさせたいと考えています。

大和のまつりオンパレード(仮)

大阪の御堂筋パレードや神戸まつりと並ぶ「大和のまつり・オンパレード」をミレニアムの記念事業として今年から平

城宮跡と藤原宮跡で交互に毎年三日間程開催する企画。奈良県内四十七市町村から伝統のまつりを一チームづつ選んでもらい、各チーム十分程度、特設舞台で披露します。初年度は大和がルーツと言われる「盆踊り」を取り上げ、全国各地の有名な踊りも加えて、大和の夏の夜をにぎやかにいどります。

民俗文化の保存

例えば、太平洋戦争に敗れた昭和二十年八月十五日以前に「奈良町」に二十歳で嫁してきた女性は、今七十五歳です。奈良の都のあった平城京の時代にまで起源をさかのぼることの出来る「奈良町」は全国で最も古い町並みを残す都市(まち)です。人々が何を信じ、どのようにして暮らしてきたのか七十五歳以上の方々からお話を聞く貴重な機会です。一年をかけて、日本のマチ衆の伝統的な暮らし振りと行事を映像と著書に編集し記録します。

樹と人と水の共生

水源地の森を守る
二十一世紀の地球環境問題の最大の焦点は大規模な森林破壊によってもたらす地球の温暖化と水不足とそれに伴う食糧

難です。大和の青垣山でも吉野でも、敗戦直後に盛んに植えられたスギやヒノキがちょうど伐採期を迎えています。安い外材に押されて森林が荒廃し始め水源涵養の機能が低下しています。昨年、川上村はみかねて、公費で私有林を買い上げ水源林の保護に乗り出しました。

奈良二十一世紀フォーラムは、下流域の奈良・大阪・和歌山の府県と国に働きかけて水源の保護運動を推進します。

理事紹介

理事長 石橋 毅一

専務理事 扇谷 泰之

理事 榎木 康夫

理事 堀井 良殿

理事 水谷川忠俊

理事 和田 萃

監事 福嶋 重博

監事 中島 大

編集後記

昨年四月、県より法人として認可され、始めて会員の皆様に会報をお届けすることができました。何分始めてのことですので、読みにくい箇所もあったと思います。ご意見・ご感想があれば、今後の参考にさせて頂きたいのでお知らせください。会報の名称 *nara* ならば、当フォーラムが、「奈良なら住みたい」「奈良なら行きたい」と他府県の方も思っていたりするような地域づくりのお手伝いにも少しでもなれるようにと願いつけました。

会員募集

社会の誰がいまあなたを必要としているか
それは奈良 21 世紀フォーラムです

ボランティア募集

事務局・編集局(会報・ホームページ作成)・
企画局(各種イベント企画)のお手伝いをして頂ける方

編集長 本間 玲子
編集委員 大辻 康夫 高岡 幸雄
発行 特定非営利活動法人
奈良 21 世紀フォーラム
〒630-8114
奈良市芝辻町 4-3-1
ラックエアビル 5F
☎・FAX 0742-35-7007
e-mail:nara21cf@poem.ocn.ne.jp